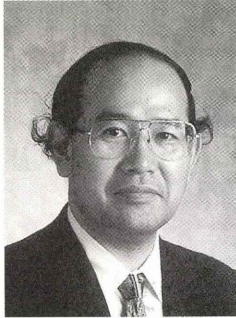


「21世紀型小児歯科医になろう」

いなみ矯正歯科（宇治市）

居 波 徹（いなみ とおる）



◎略 歴

1976年 愛知学院大学歯学部卒業
 1976年 愛知学院大学歯学部矯正学教室入局（専科専攻生）
 1977年 愛知学院大学歯学部矯正学教室助手
 1979年 愛知学院附属技工士専門学校
 矯正歯科学非常勤講師を兼務
 1981年 京都府宇治市にて
 「いなみ矯正・小児歯科クリニック」開院
 1993年 「いなみ矯正歯科」改称、現住所に移転
 咬合誘導研究会 初代会長
 日本舌側矯正学術会 副会長
 京都府歯科医師会学術委員長
 レベル アンカレッジ システム シニア コンサルタント
 厚生労働省指定 更正育成医療指定医療機関
 京都府指定 顎変型症矯正治療指定医

海外旅行は少し日常的になりましたが、まだまだ宇宙旅行は遠い夢です。しかし、今の子ども達の近未来には宇宙旅行は現実のものとなりそうです。その夢の実現のためにも、子ども達が一生自分の歯で食べられ、口腔の機能や形態を育成して、心身機能・身体構造が健康で活動でき、あらゆる場面に積極的に参加できるようにサポートするのが今の小児歯科医にかせられた任務と思います。

健康な歯と口をとおして、摂食・嚥下機能や呼吸、音声言語機能などの生活機能がはじめて営まれますが、このことをあまねく理解してもらうためには、小児歯科医としての積極的な院内・医院外活動が必須でしょう。それは、子ども達の健康状態の一つの指標であるう蝕の罹患状態について、平成12年（2000年）の12歳児の一人平均う蝕数（DMFT）は2.65と、「健康日本21」における12歳児のDMFT到達目標の「1」に近付いており、それだけ小児歯科医院に来院する機会が今後ますます減少することに結びつきそうだからです。

さらには、従来からの、疾病モデル型医療から脱却して、子ども達のより健康な歯と口を維持・増進するために、小児歯科医院をその地域の発達期の口腔保健センターと位置付けて、個所対応型の「定期健診」を軸としたヘルスプロモーションを展開すべきですし、すでに実践している医院もあると思います。

そのためには、地域・市町村レベルでの保健・検診活動や学校歯科等への今以上の積極的な活動参加が望まれます。さらに、21世紀型小児歯科医は歯・口と全身との関係に配慮し、そのことを一般の人たちに啓発する責任もあります。同時に、歯並びや噛み合わせなどの相談や咬合誘導についても、きちんとした診断や長期治療計画の立案と提示・説明を行いながら、これからの歯科医療の提供の仕方を子ども達の豊かな将来と生活を守るという観点から真剣に考えることは言うまでもありません。

上記について、子ども達の歯科医として次に歯科矯正専門医として過ごした20数年の経験から、少しでも先生方の参考になるお話ができればと考えております。